

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第1回高松市教育振興基本計画策定懇談会
開 催 日 時	令和4年8月30日(火) 15時30分～17時00分
開 催 場 所	高松市防災合同庁舎3階 302会議室
議 題	(1) 会長・副会長の選出 (2) 次期高松市教育振興基本計画の策定に向けて (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	阿部委員、笠井委員、竹内委員、松本委員、村川委員、柳澤委員、山口委員、山本委員
傍 聴 者	0人(定員5人)
担 当 課 及 び 連 絡 先	教育局総務課(839-2611)

会議の経過及び結果

小柳教育長挨拶及び委員の紹介の後、会議公開の確認、次の議題について協議した。

(1) 会長・副会長の選出について

高松市教育振興基本計画策定懇談会設置要綱第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により会長及び副会長が選任された。

会長 柳澤委員 副会長 山口委員

(2) 次期高松市教育振興基本計画の策定に向けて

事務局から説明

以後審議

(委員)

子どもに対するアンケート調査の中の「自分自身や将来のことについて」の項目の中の「あなたは自分にいいところがあると思いますか。」という質問ですが、アンケートの対象が小学校3年生、5年生、中学2年生なので、思春期の子どもたちへの質問としては、その結果が不確かなものになるのではないかと思いますし、答えにくい質問であると思います。それは、「あなたは、将来どのような大人になりたいと思いますか」の間にも関連しますが、このような質問よりも、「将来どのようなことをしたいか」のような質問をしてはどうかと思います。

(会長)

自己肯定感などの設問だと思いますが、学習状況調査などではどのように質問しているのでしょうか。

(教育長)

設問については、全国学力・学習状況調査等の質問にならっております。自己肯定感や自尊意識を問う設問ですが、全国平均に比べ、香川の児童は低い現状にありまして、香川の子どもたちは自己肯定感が低いのではないかという見方をすることもありますし、向上心が強いから、自分に厳しく回答しているのではないかという見方をすることもあります。また、海外と比較した場合は、日本の子どもはすごく低くなっています。このような中で、県全体としては、少しずつ上昇傾向にあるところです。そこで、高松市の子どもたちにも同様に質問してはどうか、ということで、同じように設問を設けています。

(会長)

同じように設問を設けているのであれば、県や国の調査から高松市だけを抽出すれば、把握できるということでしょうか。

(教育長)

全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査は、小学校6年生と中学3年生に限定しています。市の調査では、小学3年生など異なる学年に調査をすることになります。似通った値が出るかもしれませんが、小学校3年生への調査結果は国も県も持っていません。

(会長)

分かりました。データとしては取る価値がある、というのが一方ではありますが、類似のデータがあるということを考えると、少し聞き方を変えて、「なりたいものがありますか」、「やりたいことがありますか」のような意欲を問うような聞き方をして、他の自己肯定感などのデータと組み合わせ分析してみたいかでしょうか。

(教育長)

ありがとうございます。自分に問いかけて、良いか悪いかではなく、今、御意見いただいたような聞き方を検討してみたいと思います。

(委員)

この設問は、全国学力・学習状況調査にもありますが、なかなか市全体の「あると思う」という率が上がらず、「どちらかと言えばある」というのはある程度上がってきています。この結果が、子どもたちが謙虚に受け止めているからそうなのか、あるいは、自信がないのか、ある程度良いところがあると思っていても人と比べるとそのような結果になってしまうところが子どもたちにはあるのだろうか、といろいろと考えるところです。今、御意見がありましたように、この設問はこのまま生かしながらも、別の言い方の設問と組み合わせ調査してみると、子どもの内面が少し見えてくるのではないかと思います。

(副会長)

全く違うことですが、皆さんの意見を聞きたいと思ったのが、今は、第3次産業革命の社会・文化形態を持ちつつも、これから、第4次産業革命としてDXやAI、Society5.0が言われ、社会実装が変化している狭間の時代です。この計画は、令和6年から令和13年までの計画であり、まさに、この狭間の時代を、いかに教育が適応しうるかという非常に難しい計画だと思って見えています。これまでの教育振興基本計画の外部評価もさせていただいていますが、コロナ禍で合わなくなってしまった計画もありましたので、時代にあわせて変更していくことが必要ではありますが、全体の潮流としての展望をどこに置くのかということを引きちんと押さえておくことが必要であると思います。

また、保護者への質問で「子どもたちに必要な資質・能力はどれだと思いますか」という項目があります。親の視点から見ると、非認知能力と言われるような、人間であるが故の「あきらめない心」や「回復する力」、奮い立たせる自立性のような気持ちなどが今後大事になってくるのではないかと思います。問1では、非認知能力と言われる思いやりや協調性、我慢強さや自立心のような言葉がちりばめられていますが、問2では該当する項目がないことが気になりました。また、「学び続ける力」はSociety5.0の時代では、産業構造が変化していますので、常にキャリアアップやスキルアップ、学び続ける力が非常に重要になってきます。ピサの調査にもありますが、日本は学び続ける力が極端に弱く、世界最下位くらいなので、キーワードに「学び続ける力」を入れなくてもいいのかと考えました。社会全体が大きな潮流で変化していく中で必要となってくる人物像のようなものをもう少しちりばめていただけるとすごくいいのかなと思いました。

また、保護者への質問の問3について、意外に細かな視点を列挙しており、例えば、子どもの弾力性や生きる力、逆境があっても折れない心や上手いかななくても立ち上がれる力のような「生き抜く力」の教育、全般的な生きる力の視点がないと感じました。また、教員の指導力についての視点はありますが、教員の余力について、教員はしたいことはあるけれども余力がなくてできない、保護者もそれを察して要求を伝えることができない、コミュニケーションを取れないということもあります。今までの教育についての課題が、教員一人一人の指導力になっているので、学校組織としての課題感を持ってはどうかと思いました。

(会長)

8年間という長い期間の計画になりますので、これからの社会がどのようなのか、社会の仕組みや私たちの日常生活の全てが切り替わる、予想がつかない状態です。これから先のことを予想するのは本当に難しい話ではありますが、そのような時代に求められる力がたくましく乗り切っていける力ではないか、ということによろしいでしょうか。

私たちが子どもたちに期待することとしては、大変な中でも駄目だと思うのではなく、ちょっと頑張れる力、大変な中でも「やるよ」と言ってくれるような、これからの混沌とした時代の中で、たくましく何かに取り組んでくれるような力が求められると考えられます。そのような時代に始まる計画が求められることに沿える計画となるのか、あるいは、その基となるデータとして、子どもたちや保護者の期待のようなものがこのアンケートで拾えるのか、という御指摘であろうかと思います。その意味で「あきらめない」とか「学び続ける力」とかいろいろなキーワードがあったと思いますが、それでも人でしかできないことというのは確かに重要なことでして、様々

な事柄が機械化していく中で生きていくために、そのような力を育てられる環境や場所を与えられるかということだと思います。子どもたちには様々なことに挑戦してもらい、失敗しても私たちが見守り、支援できるそのような場所を学校、地域も含め、どれだけ用意できるかということ拾えるアンケートになると良いと思います。

(委員)

子どもへの質問の中の間9に携帯電話とスマートフォン、もちろんタブレットもそうですが、オンラインゲームで、小学生なのに高校生と連絡ができるようになったり、課金などの問題が今の子どもの実情としてあると思うので、そのことを、どのような形でも良いので、アンケートに入れることを検討してみてもどうかと思いました。

また、子どもたちの必要な資質・能力の中に「コンピューターやインターネットを使いこなす力」というのがありますが、今の子どもたちは既に使いこなしていると思うので、むしろ、学校で何を学ばせるかという、モラルの問題であったり、情報をきちんと精査する力などだと思います。

(会長)

私たちが思っている以上に子どもたちは詳しかったり、ノウハウを持っています。だから、使いこなせる力の心配ではなく、モラルの問題であったり、簡単に情報を手に入れることができるようになっていきますので、鵜呑みにせず、しっかりと判断できる力を養うことが大事である、ということをおっしゃっていただきました。

私からになります。子どもに対する質問の間4「きまりを守っていますか」というのがありますが、「きまりづくりに参加していますか」という聞き方がいいのではないかと思います。既に、国によっては、子どもたちがいろいろなルールを作り、学校生活に対して意見を述べて社会を作る、学校生活を作る主役になっているところがあります。例えば、ドイツでは、民主主義を担う国民になってもらうために、民主主義的な経験をしっかりと積むべきだというスタンスで、日本でいう主権者教育を重視しています。やはり、子どもたちが意見をしっかりと述べてこれからの社会を作っていく、きちんと社会を作る意欲、あるいは地域を担う、そのための根になる部分が家庭・地域・学校で育まれていきますので、私たちがそのような場を提供したり、失敗を含めていろいろな経験をしてもらいながら、取組を進めていくような社会になっていくのだと思っています。設問として、「守っていますか」ではなく、「参画していますか」と聞けると、前向きな質問になるのではないかと思います。

(委員)

アンケートに回答する際、現状把握はもちろんですが、主体的に私たち一人一人が、学校の先生、保護者、市民の一人として、教育という視点を持ち、みんなが学び続けるためにどう関わっていくのかというような問いがあるとするれば、回答者にとってはそれが考えるチャンスになるかもしれないと思いました。

また、「回復する力」というキーワードは、とても重要だと思っていて、自分たちの周りに、回復するための希望が見受けられるかどうか、そのような目線を持って周りを振り返ること、どんどんと変化していく環境に適応するために時間が必要になる中で、保護者にだけ「頑張れ」と

いうのではなく、地域の皆さんと共有しながら、自分にできることはないかを考えられるような設問があると良いと思いました。

(委員)

設問の中で、抽象的なことが多々ありますが、コロナ禍に関して、共通している項目の題材として「運動会」を取り上げていただきたいと思いました。小学校5年生は、コロナ前後の運動会を両方経験しています。これからの運動会はコロナ後の運動会の方がいいという人もいれば、あれは運動会じゃない、という人もいます。運動会は、地域と学校と家庭が一体になって応援したりされたりするのが本当の在り方のような気がしますが、少しずつ変化はしていくものですので、子どもたちはどのような運動会がいいのか、保護者と先生方にも質問できればいいのではないかと思います。

(副会長)

先生用の質問の問8ですが、これは開かれた学校にするためにどのようにしたらよいのか、どんなところを開放していくべきなのかを問うものだと思いますが、選択肢は1つを選択する形でしょうか。もしくは複数回答になりますか。

(事務局)

基本的には複数回答を想定しています。

(副会長)

どの選択肢も重要で、大切な視点だと思いますので、優先順位をつけて、上位3つなど順位をつけた回答にした方が良いと思います。回答する側の裁量で、回答数が異なるのであれば、せっかくの設問がもったいないことになりますので、問のかけ方と回答のさせ方を分析できるようなものにしていただいた方が施策につなげやすいと思いました。

(会長)

他の設問も含めて、上位何個等のように優先順位をつけて回答する方法を検討していただければと思います。

(委員)

地域に関わる一般の方が、どんなことを求めているのかを知ることは大変重要ですので、アンケート結果を、高松型学校運営協議会等の活動にも反映できるようにしていきたいと思いました。

(会長)

データの活用の仕方はいろいろあると思いますので、コミュニティスクール等にも参考にしていただきたいと思います。

(委員)

今後の施策を展開していくに当たり、保護者の意識も高めていかなければならないと思います

ので、アンケートはデータを取ることはもちろん大切ですが、問い方とか見せ方、例えばネットで設問を表示するときの背景を工夫するとか、少し視点を変えてみて、「高松市はこれから何か変わるのかな」と思わせたり、単語は知らなくても、世の中が変わっていく兆しがあるということを感じることができれば、回答することで、考えるきっかけになると思いました。保護者のデータは2,000人程度ですが、親のロコミ力はスピーディで幅広いので、学年を超えて伝わるということもあります。また、親から子どもに伝わると、その子たちが大人になった時に關心を持って教育や子育てをしてくれることにもつながり、良い連鎖が生まれると思います。子どもに対するアンケートについても同じですが、変わっていくことが分かるような表現をしていただけると、子どもたちも意欲的に様々なことに目を向けるきっかけになると思います。

アンケートの内容についてですが、「どんな先生が好きですか」という問がありますが、授業は発見や感動を与える場だと思しますので、先生が子どもたちに感動だったり、発見や気づき、教材を媒体として生まれるコミュニケーションなど、学習意欲とは別の視点も加えていただけると良いかと思えます。

(会長)

答えることで考えることにつながる、とすると、これまでの高松市の取組などがクリック一つで表示されるような、情報付きのアンケートで、単に答えを集計して使うというだけでなく、答えることで高松市がこれまでやってきたこと、これからやろうとしていることがしっかりと伝わって、面白くなりそうだなとなれば答えてよかったと思ってもらえるかもしれません。このような視点を持つことは大切だと思います。

また、人と人が関わってその中で生まれる学びを大切にすること、地域の方、保護者の方が関わり、教員や、友達とのかかわりを大事にすることも大切な視点だと思います。

いろいろな意見が出ましたが、その他は何かありませんか。特にないようですので、事務局にお返しします。

(事務局)

たくさんのお意見をいただきまして、ありがとうございました。今回いただきました御意見を踏まえ、事務局の方で最終的に取りまとめたものを再度、皆様にお送りし、御確認いただいた上でアンケートを実施することといたしますので、今後ともよろしく願いいたします。

(3) その他

特になし